

## 令和5年度東北大学学生評議員懇談会での意見交換について

令和6年2月20日(火)に、令和5年度東北大学学生評議員懇談会を開催しました。学生評議員と総長を始めとする教育研究評議会評議員が出席し、「東北大学がこれから成長、活躍していくために必要なこと」について意見交換を行いました。以下に、その内容の一部をご紹介します。

(●：学生評議員　○：教育研究評議会評議員)

### 【問題解決に向けた学生の意識と環境】

- 大学が成長するには、乗り越えるべき課題を明らかにし、それを解決していくことが重要である。そのためには学生が自身の周囲を取り巻く問題に対する当事者意識を持ち、その問題を解決するために主体的に大学に働きかけること、また、この学生評議員のように、そのような活動を行う環境が大学によって整備されていることが重要であると思う。
- 学生評議員の皆様からは細かな点から大学全体に関わる点まで、これまで様々な問題提起をいただいています。迅速に対応できるもの、あるいは大学として今後課題として取り組まなければいけないものを整理した上で、学生の皆さんにフィードバックし、皆さんご自身にも考えていただくような形で今後も続けていきたい。

### 【教員の研究環境の改善】

- 研究力の向上には研究時間を確保することが欠かせないと思うが、授業や事務作業に時間を取られてしまい、研究に集中することがなかなかできていない教員もいるのではないかと思う。
- 教員の研究時間の確保は非常に大切なことで、全学で議論しているところです。例えば全学教育について、新しいカリキュラムに移行し、授業の数を精選するなど教育の方法論も含めて、大学として新しいやり方を現在進めているところです。
- 東北大学がさらに発展するためには、教員数の確保が必要だと思う。自分の研究室の場合、三名在籍していた教員が二名になり、その後補充もないため、教員一人あたりの業務負担が大きくなり、学生の面倒を見ることもできなくなってしまう。
- 教員が研究をするにあたり、研究を支援する人たち、あるいは支援する環境を国際卓越研究大学の制度を用いて充実させることを計画しており、環境を良くすることで教員がもっと学生と時間を過ごせるような大学にしていきたいと考えています。

### 【異分野連携】

- 東北大学は、総合大学で様々な専門分野やバックグラウンドを持つ人が集まっていることがメリットだと思う。色々な学部の方と交流すると、自らの専門分野を見つめ直す良いきっかけにもなるため、異なる専門分野の連携をより深めていくことが、今後必要になると考える。
- 専門分野を追求していく中で、学際的に研究を進めていくということは、大学全体としてもこれからさらに取り組みなければいかなければならないと考えています。コロナ禍を経て一般的となったリモート環境をプラスに働かせ、これからより一層、総合大学という意味で、皆さんが違った学部あるいは研究科の人たちと交流できるような仕掛けを作っていきたいと思えます。

### 【国際卓越研究大学認定に向けた貢献】

- 国際卓越研究大学認定に向け、人文社会系の研究はどのような形で貢献できるのか、見出しにくい。東北大学として、人文社会系の研究者にどのようなことを期待しているのか。
- 人間の心理や、感情、国家の法システム、社会のあり方などが科学技術と一緒に議論されなければ、科学技術というものが人類を幸福にするために使われるということは難しいということを国全体で議論しています。人文社会の先生方がこれまで蓄積されてきた人間の考え方、社会のあり方、法のあり方などに関する考え方や経験、知識に強く期待していますので、ぜひよろしくお願いいたします。

### 【東北地方における地域貢献】

- 東北大学は地方都市である仙台に位置する大学として率先して東北地方をデザインする必要があると考える。医療技術の発展や、観光や農業、漁業、官公庁誘致、企業誘致など、東北地方を活性化させ、引っ張っていくことができるのは東北大学だと思う。また、様々な技術を推進し近未来を可視化することで、東北大学は身近で面白いことができる大学なのだとアピールすることが成長活躍につながるのではないかと考える。
- 国際卓越研究大学となり、東北大学を通して直接世界と地域が出会う機会が増えることは、地域の観光や産業にとって大きなインパクトがあることだと考えています。新しい技術を見ることで、このような将来になるのかもしれないと感じることができ、またその研究ができる面白い大学であると思ってもらえるようにすることはとても重要な視点であり、ぜひそれを進めていきたいと思えます。

### 【学部における早期卒業制度の拡大】

- 東北大学は、AO 入試や一般入試、一般も前期後期と、入学の形態も幅があり、授業の形態もオンラインや対面といった選択肢が増えている。また、就職の形態も年々早くなるなど、多様化しているため、卒業の形式についても、限られた学部のみ早期卒業可能というのではなく、制度として選択肢を学生に与えることは難しいか。
- 各教育課程が求めるディプロマポリシーを満たすことのできる形であれば、多様な形があっただけでいいと思っており、意欲を持った学生がそのような課程を志すことができるというのは重要なことだと思います。国際卓越研究大学の認定に向けて、秋入学や秋卒業も含めた柔軟な設計ができるような形で、大学全体が今変わろうとしていますので、期待をしてください。

以上